

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2690400060 | | |
| 法人名 | メディカルケア御所ノ内株式会社 | | |
| 事業所名 | 御所ノ内ホーム(3階) | | |
| 所在地 | 京都市下京区西七条南月読町102-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年10月 1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年1月22日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&IjyosyoCd=2690400060-00&PrefCd=26&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---|
| 評価機関名 | 一般社団法人 京都ボランティア協会 |
| 所在地 | 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1「ひと・まち交流館 京都」1階 |
| 訪問調査日 | 平成29年10月13日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

京都武田病院グループとして、医療との連携に力を入れています。また、①家庭的で温かなケアを提供します。②ひとりひとりに寄り添うケアを心懸けます。③確かな知識・技術・方法でケアを行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

御所ノ内ホームは開設後4年が経過しました。利用者の平均介護度4、平均年齢は90歳を超え、外出には全員が車椅子を使用する現状です。この状況を踏まえ、利用者の生活が安心、安全であり、穏やかで豊かな時間を過ごせるように、職員全員で支えています。介護内容は、介護計画や毎月のユニット目標で表記し、評価をおこない取り組んでいます。事業所の行事の夏祭りでは地域、家族との交流をおこない、ひな祭りやお花見ドライブ、外食など楽しんでいます。職員から家族に向けた毎月の「写真付きお手紙」は、利用者の新たな一面が見られると好評です。職員の離職率は低く、体制面が整い、特に委員会活動や係活動は職員が自発的に行うようになり、役割分担ができてきました。院内研修の様子をブログに載せ発信しています。運営推進会議での意見から、入所契約書に「反社会的勢力の排除」の項目が追加されました。会社方針としてインターシブ制度の導入を本年度から開始し、知的障害者や外国人の就業の場としての取り組みも検討を始めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | | |
|----|-----|---|--|---|--|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念は週に1回朝の申し送りで唱和し、各フロアにも掲示することで共有できている。理念に沿ったケアを心がけている。 | 理念は、毎月曜日の唱和や各ユニットに掲示し、職員全員に浸透している。介護計画立案の際も話し合っている。また、日々の介護課題を月目標に掲げ理念の達成に繋げている。評価は定期的に行い、出てきた諸課題は新人教育にも取り入れている。理念の外部への発信が不十分である。 | 理念をパンフレットや広報紙、重要事項説明書、ホームページなどに記載してアピールしていかれてはどうか。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 喫茶店等への外出や、食材や日用品の購入は近隣の店舗を利用している。夏祭りの行事では回覧板などを利用し、地域の方へも案内を行った。 | 夏祭りの案内は、運営推進委員会や地域の回覧板で広報し、地域住民との交流をおこなっている。食材や日用品の購入は、近くのスーパーや100円ショップに利用者とともに出かけている。町内の喫茶店へは月に2~3回出かけ、地域の方との交流の場となっている。ボランティアによるマジックショーやヘルマンハーブの演奏会も楽しんでいる。子どもとの交流の場は少なく、ボランティア受け入れも限られている。 | 幼老交流の視点から、近隣の幼稚園、保育園との交流をおこなうとか、小中学生の福祉学習への支援などおこなわれてはどうか。また、利用者の楽しみを増やすために、各種ボランティアの受け入れへの検討を期待する。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症講座などを職員主導で行えないか検討している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域包括支援センターや家族会などから出席があり、意見交換を行っている。 | 委員は下京西部地域包括支援センター、家族の代表(1名)民生委員(2名)町内会長が参加している。委員の提案で「反社会的勢力の排除」の項目が入所契約書に追加され、毎月の利用者近況報告の手紙が写真付き便せんに変更された。家族への会議への案内、議事録の配布はできていない。 | 会議は小規模多機能との合同会議である。もう少し家族の出席を増やすことが望ましい。事業所の地域への貢献やボランティアの活用、災害訓練への参加など意見交換を期待する。家族への会議への案内、議事録の配布を望みたい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 下京西部地域包括支援センター、事業者連絡会議などで連絡を密にしている。 | 認定更新時や運営推進会議録を渡す時に、担当にあつて話をしており相談できる。地域ケア会議や事業者連絡会議には、毎回出席し連携はとれている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 内部研修を行っている。日常でも、拘束にあたるかどうかを確認しながらケアを行っている。 | 研修では、高齢者権利擁護や高齢者虐待発見チェックリストを活用しての内容とともに、スピーチロック・フィジカルロック・ドラッグロックなどについても、少グループで討議している。服薬による利用者の変化を細かく観察しカンファレンスにかけ、医師に報告して服薬量の調整や薬をやめてケアで対応した例がある。 | |

京都府 御所ノ内ホーム(3階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 内部研修を行っている。利用者の状態を職員間で共有しながら、虐待防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 内部研修を行っている。成年後見制度を利用されている方もおられる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居後の生活については職員からも説明を行っている。契約内容の変更があれば説明し、書面にて同意の確認を取っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族とは面会や電話連絡の際に、意見や要望を聞き取っている。また、話しやすい雰囲気作りを心がけている。1階には意見箱を設置している。 | 家族の面会は、週に1回以上が多い。来訪時には職員から声をかけ、近況報告をおこなっている。お茶をだし来訪へのねぎらいの言葉がけもおこない、ゆっくりできる雰囲気を作り話を聞いている。遠方の家族には、月1~2回電話で話している。意見箱は玄関に置いてあるが入っていたことはない。昨年の満足度調査でも苦情記載はない。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のリーダー会議や、日常業務の合間にも、利用者のケアや業務内容について話し合う機会が持っている。 | 職員はユニット会議やリーダー会議、各種委員会、係活動で意見や要望を述べている。年2回の個人面接では、個人目標や研修計画を立て臨んでいる。委員会活動は、職員の自主的な企画運営がおこなわれるようになっている。シャワーチェア、マグネットボード、ホワイトボードの整備をおこなった。また、玄関スペースでおこなった生け花の展示会は家族は大変喜ばれた。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人材育成に力を入れている。残業が少なく、いつでも相談等ができる環境が作れている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内外への研修参加機会を設けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修等で他施設の職員と交流する機会がある。 | | |

京都府 御所ノ内ホーム(3階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前情報の確認、本人との面接を行い、安心して入居いただけるよう心がけている。入居後も安心して生活できるよう、関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 見学の段階から、要望等の聞き取りや、入居後の生活について説明を行っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 必要な支援を見極め、支援計画に反映させている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家事や食事を一緒に行い、生活を共有している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会や電話連絡の際には本人の様子を伝え、必要に応じてケアについての相談を行っている。月に一度、お便りを送付している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人や近所の方の面会がある。馴染みの理髪店や喫茶店等の利用、馴染みの場所への散歩を行っている。 | 友人や近所の方の面会はあるが、高齢になってきているため回数が減っている。家族の面会は毎日、2日に1回、1週間に1回などで来られている。近くの馴染みの喫茶店やスーパーに出かけたり、馴染みの理髪店に2ヶ月に1回行かれる利用者もある。趣味の習字や生け花の継続を支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | レクリエーションや家事など、一緒に取り組んでいただいている。テーブル席の配置を調整するなど、利用者同士の関係にも配慮している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後も電話等で対応しており、必要に応じて支援できるよう努めている。 | | |

京都府 御所ノ内ホーム(3階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりとコミュニケーションを取り、意向の把握に努めている。自身からの発信が難しい方には、本人の思いについてカンファレンス等で話し合いを行っている。 | 入居当初より、利用者や家族から聞き取りを続け把握に努めている。また、日々の関わりの中で思いや意向がわかった時は、記録し職員で共有している。意思表示ができていない場合は、聞き取りをもとに反応など様子を見て対応するようにしている。利用者の高齢化も進み、自らの要求は少なくなっており、職員が誘うことも多い。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時には事前情報を確認し、入居後も本人・家族からその都度情報を聞き出している。センター方式シートを活用している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 記録や申し送りにて、日々の状態を職員間で共有している。毎月のカンファレンスでも現状について話し合いを行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当者を中心に毎月カンファレンスを行っており、介護計画にも反映させている。本人や家族にも話を聞きながら、3ヶ月に一度プランの見直しを行っている。 | 日頃から利用者(家族)の思いや意見は、くみ取る努力を行っている。毎月(必要時)のカンファレンスで検討し、3か月毎の計画見直しにつなげている。医師や看護師からの情報も得ている。利用者本位で検討し、サービスの具体策に個性を入れるよう努力している。研修で「ケアに反映させるための記録の書き方」を学んでいる。介護問題に沿った記録も進んでいる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別に介護記録を録り、職員間で情報を共有している。特記事項については個別支援経過に記録し、センター方式シートも適宜活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 状況に応じて、他フロアとも連携を行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 馴染みの店や場所などを活用している。 | | |

京都府 御所ノ内ホーム(3階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は京都武田病院を利用しており、月に2回訪問診療を受けている。他科受診など、他病院への希望があれば応じている。 | 全員が京都武田病院をかかりつけ医に選択しているが、他院をかかりつけ医にすることもできる。月2回の訪問診療のほかに、希望者は歯科医の訪問診療や訪問マッサージをうけている。他科受診は看護師が同行し病状を把握している。病状は「外来受診票」に記録し共有を図っている。看護師は常勤である。母体が京都武田病院であり、緊急時の受診とともに家族の信頼は厚い。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ホームの看護師と情報の共有、相談を密に行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 京都武田病院と同グループであり、普段から連携を取りながらサービスを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の対応は契約時に意向を確認しており、その後も状況に応じて再確認を行っている。京都武田病院と連携を行っている。 | 入居時に「事前意向確認書」をもとに、利用者・家族の意向を確認している。また「看取り介護と重度化に係る指針」も説明し、グループホームでの看取り介護についての同意書も取り交わしている。体制は整っており、職員はターミナルケア研修に参加している。現状では入院治療を希望する利用者・家族が多く、看取りの実績はない。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 内部研修を行っている。利用者個々に必要な対応は、ホームの看護師と確認している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防避難訓練を年に2回実施し、昼間・夜間それぞれを想定した訓練を行っている。 | 年2回訓練を実施(昼・夜想定)し、うち1回は消防署の指導を得ている。利用者も一緒に参加している。地震を想定した内容も今年度から行うようになった。訓練内容は、消防署長賞を受けている。地域の方の参加はない。備品については同系列の事業所や京都武田病院と協力体制をとっている。業者と提携して災害時対応の自動販売機を設置している。 | |

京都府 御所ノ内ホーム(3階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格やプライバシーに配慮した対応を心がけているが、スタッフ間のケアに関する会話が利用者に聞こえている場面もあり、改める必要がある。 | 理念の1つ「ひとりひとりに寄り添うケアを心懸けます」に基づき、利用者に向けての言葉かけや介助はプライドを傷つけないように配慮している。入浴や薬を塗るなどは同性で介助している。研修では事例を用いての話し合いをしている。接遇面で課題が見つかった時は、ユニット会議で話し合っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | コミュニケーションを取りながら、思いや希望を表していただいている。分かり易い声掛けを心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | メリハリをつける意味でも定時の体操等への参加を呼びかけることはあるが、基本的に一人ひとりのペースに合わせたケアを行っている。本人の意思表示を大切にしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 日々の身だしなみを整えたり、外出などの際にはおしゃれができるような支援を行っている。訪問理容を活用している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 昼食時は職員も同じテーブルと一緒に会話をしながら食事をしている。準備、片づけを一緒に行うことは難しくなっている。 | 昼食と夕食は厨房で準備している。朝食とおやつを主に利用者の希望を取り入れ、一緒に買い物に行っている。店内では利用者がかごを持ち、食品を選んでいる。個人の希望や誕生日のお祝い外食を、小グループでおこなっている。最近では、うどん、とんかつ、そばを食べに出かけた。うなぎを希望した方の誕生日は、うなぎを特注し皆でお祝いした。利用者は重度化が進み、準備や片付けはしにくくなっているが、職員が作っている様子を見て楽しんでいる。食事時は職員も一緒にテーブルを囲んでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々の状態や習慣に応じて、食事形態や提供の仕方に工夫を行っている。一日の食事量・水分量は記録を録りながら、十分な摂取ができるよう支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 個々の状態に応じた口腔ケアを行っている。訪問歯科とも連携している。 | | |

京都府 御所ノ内ホーム(3階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 昼間は布の下着を着用していただくなど、自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表を活用しながら、適宜必要に応じた介助を行っている。 | ひとりひとりの排泄パターンを把握し、個々に対応をしている。昼間は布パンツで過ごす利用者もいる。ほとんどの利用者がリハビリパンツとパットを使用しているため、皮膚荒れを起こさないように清潔に留意している。就寝時のみポータブルトイレを使用している方もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便状況に合わせて、提供する飲食物の工夫を行っている。看護師と相談しながら排便コントロールを行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴のタイミングや同性での介助など、なるべく本人の希望に沿った支援を行っている。本人の体調にも配慮しながら入浴のペースや、その日の順番を考えている。 | 個浴槽で週2回を基本に入浴をしているが、清潔保持のためにその都度の入浴もおこなっている。その日の体調や気分も見ながら、体の状態の観察もしながら進めている。2人で介助する方が約半数をしめる。シャンプー・リンス・せっけんを、家から持ってきている人もある。同性介護の希望を聞いている。シャワーチェアの設置で入浴がしやすくなった。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの状態に応じて休息していただいている。夜間はなるべく個々のペースで就寝していただいております。安眠できるよう日中の活動への参加促しも行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 使用している薬はすぐに確認できるよう個人ファイルに一覧を綴じている。症状の変化を確認しながら、薬の処方についても医療職と相談している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 金魚の世話や室内装飾作りなど、役割を感じていただけるような、また趣味・嗜好に合せた活動へ参加していただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近隣への散歩や買い物、季節を感じられるような外出レクを本人の希望も聞きながら実施している。家族との外出も支援している。 | 外出は全員が車椅子を使用している。日々の買い物には、できるだけ利用者を同行している。気候や天気の良い日は、本人の希望を聞きながら散歩や近隣のスーパーへ買い物、町内の喫茶店に出かけたりしている。喫茶店では、馴染みの方との交流がある。花見や紅葉狩り、ドライブ、外食などにも小グループで出かけている。 | |

京都府 御所ノ内ホーム(3階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個々に使用できる金銭をお預かりしている。お金の所持についても希望者に支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電子メールや手紙のやり取りができるよう希望者に支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用部は適宜、光や温度の調整を行っている。季節に合せた装飾を利用者と一緒に作成するなど、居心地の良い空間作りに配慮している。 | リビングは空間が広くゆったりとしている。一角に畳のスペースがあり、午前と午後ここで休まれる利用者がある。ソファと椅子は好みでくつろげる。テーブルの席は、テレビを見たいグループや仲良しグループなど考慮している。利用者のできる事が限られる中で、皆で作った輪飾りが天井を飾っている。季節ごとの飾りや習字、手作りのカレンダー、元氣なめだか鉢などもあり、家庭的な雰囲気が出ている。清掃は職員が毎日している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 利用者同士の関係や影響にも配慮しながら、テーブル席の配置を調整している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居心地良く過ごせるために、なるべく馴染みの物品を用意いただくよう、入居時に説明している。室内整理が必要な場合には、本人と相談しながら行っている。 | ベッドはリースから備え付けになり、利用料の軽減になっている。持参された馴染みの机や椅子、整理タンス、仏壇などがあり、写真や手作りの作品なども置かれている。観葉植物を育てている方もおられる。小物の配置にこだわりのある方は、ご自身(家族)で小物まわりの清掃をされている。それぞれに個性がある。清掃は毎日利用者と職員でしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 動線の安全性や、分かり易いトイレ表示など、利用者が自立した生活を送れるよう配慮している。 | | |